

# 中信高校山岳部かわらばん

編集責任者 大西 浩

## 岳陽高校5月針ノ木合宿

今年は、7人の1年生が入部した。11（金）、12（土）の両日、大町岳陽高校新歓春山合宿第2弾を行った。前号で、一昨年まで実施されていたセンター研修会を受け継ぐ形で、合同での針ノ木合宿を提起したが、日程も合わなかった（金土の日程、南信大会と重なった）ためか、結局単独実施になってしまった。しかし、僕が合同合宿を呼びかけたのには理由がある。その理由とは・・・？

11日、8時半学校集合、今回は平日でもあり、保護者の送迎はお願いできなかったので、顧問4人の車で参加した21人を2回に分けて引率。登山口まで20分、大町という立地を最大限利用。こんな学校普通はない。10時半、全員が扇沢に集結。全体を6班に分けて大沢小屋を目指す。ヘルメットをかぶり、ピッケルを背にしたいっばしの山屋のいでたちはしているものの、初めてのメインザックの重さは1年生には山岳部の洗礼か。わずか1時間半程度の歩行ではあるが、いきなりの雪上歩行で、思った以上にこたえている感じ。しかし、12時には幕営予定地の大沢小屋に到着。ここで、雪上での幕営。

去年は、私の都合がどうしてもあわず、日帰りとなってしまったので、2年生もこの時期に針ノ木に泊まるのは初めてだ。3年生は1年のときにセンターの高校登山研修会に参加しているので、その時のことを後輩たちに楽し気に話している。話題の中心は、雪のテーブルでの大宴会（もちろんノンアル）と雪溪の尻セード。

毎年この時期には必ずセンターの研修会で針ノ木に泊まるのが伝統になっていただけに、去年針ノ木で泊まれなかったというのは、3年生にとっても、2年生にとっても非常に残念なことであったようだ。3年生がことあるたびに、「針ノ木の研修会は楽しいよ」と下級生に何度もいうのを聞いた。この言葉には、「この研修会を経験して初めて山岳部の生徒になった」ということを語るものだったのだ。

センターの研修会が昨年中止になり、私自身も日程の調整がつかずどうしようかと迷ったが、しかし、たとえ日帰りであっても去年やったことは無駄ではなかった。生徒にとって、入学直後の最初の山行で、「残雪期の素晴らしい景色を堪能し、1年次は楽しみながら基礎訓練、上級生になったら針ノ木峠へ行ける」という目的をもったこの研修会の精神をしっかりと今年へと繋げることができた。（昨年の訓練の様子は、添付した612号をご覧ください。）去年は、大町高校のOBで、大町山の会の矢口拓さんにお手伝い願ったが、ありがたいことに今年本校には、非常に心強い顧問である河竹康之さんを迎える

ことができたので、自前で1泊2日をこなすことができた。

11日は針ノ木本流を少し登り、赤石沢手前の右岸斜面を使って、1、2年生12人を小生が、3年生9人を河竹さんが担当し、訓練を実施した。やったことは、歩行訓練やアイゼンピッケルワークと滑落停止、ロープワーク。13時30分から



16時まで、あっという間の2時間半であった。

テント場に帰って早速夕食。メニューはマーボー豆腐とごはん、わかめスープ。飯炊きの技も伝承。生徒たちはお目当ての雪のテーブルを囲んで、談笑。食えや、歌えやで大盛り上がり。1年生もクラブの雰囲気になじんでいく。夜空には満天の星。

翌日は、朝5時起床。6時35分に集合完了。アイゼンを装着。出発は7時。全員で針ノ木峠を目指す。大沢小屋までは、かなり少雪であったが、中段から上は例年並みか。今年は雪面がきれいで歩きやすい。赤石沢を過ぎ、ノドの手前で一本休憩を入れる。昨日は平日だったこともあり、ほかに入山する人もほとんどなく広い雪渓を占有したが、今日は土曜日とあって、早朝から多くの人が入山している。抜きつ抜かれつで、上へと進む。天気は昨日のような快晴ではないが、今日一日は持つという予報通り、少し雲が出てきた。ノドを登り切って2本目の休憩。地図を開かせて地形を確認。3年生は今回で5回目の針ノ木詣で。まさにここは、本校山岳部にとってのホームグラウンド。僕も本校に来て5年目になるが、数えてみれば、10回目。平均年に2回は登っている。

マヤクボ出合を過ぎ、傾斜は徐々に急になる。1年生の一人が、腰が痛いと言い、リタイア寸前。たち休みを入れながら、荷物を分散し、あとわずかと何とか頑張らせる。10時5分、峠に到着。天候が回復し、正面には槍穂高はもちろん、富士山もきれいに見える。背後を振り返れば、後立山いつも見慣れた姿とは違う形で聳えている。生徒が休んでいる間に、河竹さんと一本フィックスを張る。雪は腐っているとは言うものの、初めて来た生徒たちにとっては、雪上における峠直下のこの急傾斜は、さあ行けと言われて行けるものでもない。10時25分、山岳部歌を歌い、さあ、記念写真を撮ろうと生徒を並ばせ、シャッターを切ろうとした瞬間、緊急地震速報があちこちの携帯からけたたましい警戒音を響かせた。あとで、わかったが、大町で震度5弱を記録した10時29分の地震だった。雪底に近いところに立っていた小生だが、全く揺れには気づかなかった。針ノ木峠は全く揺れず、誰一人地震に気づいた者はいなかった。

下山、フィックスを一人ずつ下らせ、ノドの上部まで、先頭を河竹さん、しんがり小生が追いながら下る。適度な腐り具合に、尻セード大会が始まった。この時のために家から持参した肥料袋を出すもの、シャベルを使うもの、濡れるのもお構いなくそのまま下るもの……。およそ、1時間10分で、大沢小屋着。生徒たちの顔は満足感でいっぱいだ。13時15分撤収。14時15分扇沢着。帰路も2便に分けて、学校へ。16時全員学校帰着。真っ赤に日焼けした生徒たちの顔がこの山行を物語っていた。

さて、冒頭の「合同合宿を呼びかけた理由」である。恐らく、技術指導ができ、経験がある顧問が僕一人ではこの山行は実施できなかったであろう。河竹さんがいたから、実施できた山行である。県内の高校に、僕同様、針ノ木に登れる先生は何人もいる。しかし、そういうレベルの顧問が一つの学校に複数いる学校はない。つまり、生徒をこの



時期の針ノ木には連れ出せないということだ。しかし、複数の学校が合同であれば、集団指導体制を組むことが可能になる。50年以上続いてきた「山岳総合センターの高校生研修会」はその意味で非常に貴重な機会だったのである。来年度以降の復活を強く望むものである。